

会議名：臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題
検討分科会（第 26 期・第 2 回）議事要旨

日時：令和 7 年 1 月 20 日（月） 17:00 – 18:30

会議開催形式：オンライン会議（Zoom 利用）

参加者（敬称略・順不同）：神田玲子、櫻井博儀、井上優介、大倉典子、
岡沢秀彦、唐澤久美子、多胡正夫、中野隆史、西尾禎治、赤羽恵一

議題等：

- 1) 分科会委員の辞任の承認について
- 2) 第 1 回粒子線治療産学共同研究の国際競争力強化検討小委員会の報告
- 3) 令和 7 年度の活動計画について
- 4) 部会長より会議運営について
- 5) その他

議事録：

- 1) 参加者自己紹介（10 名）
- 2) 中野委員長より、佐治連携会員から放射線治療は専門外であるという理由のため本分科会の辞任依頼があった。本件について本分科会で承認された。
- 3) 中野委員長より、第 1 回粒子線治療産学共同研究の国際競争力強化検討小委員会の報告があった。資料ファイル名「粒子線治療産学共同研究の国際競争力強化検討小委員会第 2 回小委員会検討課題等まとめ」の資料に基づき説明がなされた。
課題と解決策をエクセル表で整理し、今後、課題に対する解決策を小委員会で提案、課題項目の精査、重要性を 4 月までに絞り込み、見解書を作成し 9 月 30 日までには見解書の最終版作成を目指す。
- 4) 中野委員長より、今後、年 2 回の分科会開催、WEB 会議及びメール会議を多用することで月 1 回程度の小委員会を開催する方針で進めたいとの説明があった。
- 5) 神田部会長より、会議運営についての説明があった。
分科会、文章作成等に関する説明において、前期（第 25 期）から”見解“という新たなカテゴリーができ、“見解”と“提言”等との相違について、また、分科会から発信する専門的見地からの提言は“見解“となるとの説明があった。見解書は分野別委員会での査読、部の査読、対応委員会承認後に公表され、また、“提言”、“見解”、“報告”等によって査読プロセスが異なるとの説

明があった。

6) その他

赤羽連携会員より、国内には多くの粒子線治療施設があるので、そこに所属した医師・医学物理士等から情報収集した方が良いとの意見があった。

櫻井副委員長より、見解書を作成・公表する上で本提案事項のメリットなどを判るようにした方が良いとの意見があった。

西尾幹事より、海外は医学、理学、工学、企業、国が連携して医療機器開発を実施する体制があるが、日本にはそれが弱いので、分野横断型での医療機器研究開発体制構築を国の支援を受けて進めるのが良いとの意見があった。

以上